

専門研修プログラム名	精神科専門医研修プログラム	専門研修プログラム
基幹施設名	薫風会 山田病院	
プログラム統括責任者	山田 幸樹	

<p>専門研修プログラムの概要</p>	<p>薫風会山田病院は306床・6病棟で構成され、精神科救急病棟、うつ病・神経症などのストレス関連疾患を対象としたストレスケア病棟、また重度認知症疾患を対象とした病棟、社会復帰病棟、慢性期病棟に機能分化され、24時間365日救急対応可能な体制を整えています。全ての病棟で医師・看護師・精神保健福祉士・薬剤師・心理士・作業療法士等の多職種によるチーム医療を実践しています。外来受診から入院治療、社会復帰、さらには就労を含む地域での生活を支援することまでが一連の流れと考えた治療を提供しています。そのほか、外来部門ではデイ・ナイトケア、SSTや認知行動療法、就労準備支援などを行い、医療観察法の指定通院医療機関として医療観察法対象者へのガイドラインに則った医療、支援を提供しています。また基幹型認知症疾患医療センターを併設しており、認知症疾患の診断治療や介護者などへの教育研修を行っている。関連施設としてサテライトクリニック、訪問診療クリニックやリワークデイケア、地域活動支援センター、訪問看護ステーションを持ち、地域医療を支えています。当プログラムでは、こうした法人施設において地域に根ざした精神科医療を広く学ぶことができます。</p>	
<p>専門研修はどのようにおこなわれるのか</p>	<p>当院は患者主治医制をとっており、専門研修中も急性期を中心に慢性期、認知症など幅広い精神疾患の患者の担当として、指導医と共に診療を行います。面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び、精神療法の基本を修得する。特に面接によって情報を抽出し、診断に結び付けると共に、良好な治療関係を構築し、維持することを学ぶ。入院患者を入院時から退院時まで指導医と共に受け持つことで、適切な入院形態、行動制限の手続き、基本的な法律の知識を習得する。外来診療では指導医の診察に陪席し、面接の技法、患者との関係の構築の仕方、基本的な心理検査の評価などについて学ぶ。月に1~2回定期的に行われる院内カンファレンスでは、症例の理解を深める事を目的に、症例を発表し指導医との討論を行います。</p>	
	<p>修得すべき知識・技能・態度など</p>	<p>面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び、精神療法の基本を修得する。特に面接によって情報を抽出し、診断に結び付けると共に、患者のみならず家族とも良好な治療関係を構築し、維持することを学ぶ。精神科医として必要な身体疾患に関する診断、治療を学び、必要に応じて身体科へのコンサルトを行うことができるようにトレーニングする。基幹病院および連携研修施設での研修を通じて、児童・思春期精神障害、アルコール・薬物依存症の症例についても研修することが可能である。</p>
	<p>各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得</p>	<p>月に1~2回行われる医局のケースカンファレンスのほか、病棟の行動制限カンファレンスなどに参加し、難治症例や特殊な症例について検討し知識や技能を高める。受け持ち症例についても発表を行う。</p>

専攻医の到達目標	学問的姿勢	専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。患者の日常的診療から浮かび上がる問題を日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決できない問題についても、積極的に臨床研究や基礎研究に参加することで、解決の糸口を見つけようとする姿勢が求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とする。その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの自ら学び考える姿勢を心がける。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	日本精神神経学会や関連学会の学術集会や各種研修会、セミナー等に参加し、医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度などについて履修し、医師としての基本的診療能力を高める機会を設ける。法と医学の関係性については、日々の臨床の中で入院形態や行動制限の事例などを経験し、学んでいく。その中で必要な診断書、証明書、医療保護入院者の入院届、定期病状報告書など各種の法的書類を、法的な意味を理解して記載できるようになる。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	基本的な研修プログラムは図1に示す通りである。そのほか連携する各施設における研修状況やその評価、そして専攻医の希望する研修内容によって、適宜研修計画を検討する。
	研修施設群と研修プログラム	当基幹病院としての連携先病院は、東京都板橋区にある日本大学板橋病院、群馬県高崎市にあるサンピエール病院があり協力して研修プログラムを進めている。また、防衛医科大学校病院の連携病院としても当院は機能している。
	地域医療について	当院は西東京市内にサテライトクリニックを併設しているほか、地域活動支援センター、訪問看護ステーションを持ち、また行政機関にも相談支援員を派遣するなど、地域における精神科福祉の充実を重視しています。
専門研修の評価	3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医が、それぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。1年後に指導責任者が、1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を確認し、次年度の研修計画を作成する。また、その結果を統括責任者に提出する。その際の専攻医の研修実績および評価には、研修記録簿／システムを用いる。	
修了判定	研修ガイドラインに則って3年以上の研修を行い、研修を終えた時点で研修期間中の研修項目の達成度、多職種による評価、経験症例数を評価し、プログラム管理委員会の審議を経て判定を行い、研修プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって研修を終了したものとする。	
	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラム連携施設（日本大学板橋病院）担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。

専門研修管理委員会	専攻医の就業環境	専攻医の就業はそれぞれの研修施設の就業規則に則って行われるが、就業環境の整備が必要な時は、各施設の労務管理者が適切に行う。施設で行われる定期的健康診断（2回）のほかに、心身の不調がある時は、研修指導医を通して、しかるべき部署で対応する。
	専門研修プログラムの改善	研修施設群内における連携会議を定期的に開催し、問題点の抽出と改善を行う。専攻医からの意見や評価を専門医研修プログラム管理委員会の研修委員会で検討し、次年度のプログラムへ反映させる。
	専攻医の採用と修了	日本専門医機構HPに掲載される案内を確認の上、専攻医の募集・採用を行う。研修ガイドラインにしたがって3年以上の研修を行い、研修を終えた時点で研修目標の達成度及び多職種評価を行い終了判定をおこない受験資格が認められたことをもって研修を終了したものとする。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	特定の理由のために専門研修が困難な場合は、学会の専門医研修委員会に申請することにより専門研修を中断することができる。また、他のプログラムへ異動しなければならない特別な事情が生じた場合は、他のプログラムへの異動ができるものとする。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	連携各医療機関との間で指導医による相互訪問を行うことで各施設における研修を効果的に進めるよに検討する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	山田雄飛（山田病院名誉院長）、山田幸樹（山田病院院長）、竹中秀夫（認知症疾患センター長）、河野純子（山田病院診療部長）、伊藤新（山田病院医局長）、宮野 康寛（山田病院精神科医師）、穂山真由美（山田病院リハビリ科長、有馬邦正（山田病院診療部顧問）	
Subspecialty領域との連続性	精神科専門医subspecialityの取得希望の場合には、連携する大学病院での資格取得をバックアップする。	